

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・例年3月は卒業旅行シーズンであることから、若者の利用が増える傾向にある。今年は若者の利用が例年よりも多く、好調であった。全体の利用客も見込みを2割ほど上回った。また、かなりの客が土産を買っており、以前のような消費行動が戻りつつある。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は2024年比で153.8%、2023年比で165.8%、2022年比で456.5%、2021年比で878.8%、2020年比で856%、2019年比で211.8%となっている。
	○	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・スーツの売れる時期を迎えるなか、今年は人事異動が多いことから、買換えが進んでいる。来月も人事異動の着任に伴って買換え需要が生じるとみられる。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3月までローンの金利を低く設定している車種があるため、前月と同様に販売量が伸びている。周りをみても同じような動きになっている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・今冬は恒例の冬のイベント、スキーなどの冬型スポーツに対するインバウンドの需要が特に好調であった。アジア圏からは直行便を利用して、欧米圏からは国内の主要空港から乗り継ぐケースが多くみられた。また、国内客についても、アイドルグループのコンサートや春休み旅行などのプラス要因がみられた。これらのことから、航空需要は好調に推移した。
	○	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・3月半ばから新規案件の問合せがとて増えている。旅行にかける予算も、前月と比べて増加している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・1年以上にわたって、乗務員を順調に採用できており、3月の乗務員数は前年から約40%の増加となった。タクシー1台当たりの売上も前年比プラス10%と好調であった。この結果、3月の売上は前年から55%の増加となった。
	□	商店街（代表者）	単価の動き	・販売価格の2極化がますます進んでいる。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価高や燃料価格高騰の影響で、地域住民の来街は減少したままである。前月や前々月は、夜型飲食店でますますのにぎわいがみられたが、3月の平日の様子をみる限り、酔客などの姿が減っている。外国人観光客の姿を見掛けることも当区域では少ないままである。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・景気に力強さがない。前年後半からの閉塞感が変わっていない。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・ここ数か月、地元客による買物が低調なまま変わらない。
	□	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・インバウンドの安定的な入込により、全体的な消費動向は堅調に推移しているものの、道内の一般消費者による購買は、物価高の影響で低調なままである。こうした状況はしばらく続くことになる。
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は伸び悩んでいるものの、携帯電話やランドセルなどの高単価商材は売れている。金を使う物、使わない物の線引きがシビアになっている様子がうかがえる。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・雪解けやインバウンド効果もあって、来客数が前年並みに近づいている。一方、買上点数は減少しているが、客単価の上昇がそれを補っている。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数はどうにか維持できているが、商品の値上げが収まらないことから、酒、たばこなどの嗜好品の売上が低迷している。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・米やガソリンの価格高騰により、引き続き家計には大きな影響が出ている。インバウンドの入込が落ち着いていることもあって、来客数は減少傾向にある。

□	乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・直近の新車の販売状況について、変化がみられない。新型車が投入されたものの、価格面の問題と割当て台数の少なから、景気を変化させるような材料とはなっていない。
□	乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・1月及び2月の販売量が奮わなかったため、納車のタイミングとなる3月の売上が例年と比べて減少している。ただし、サービス部門の利益は例年並みとなっている。
□	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・前年12月以降、燃料油価格激変緩和補助金の補助率が段階的に引き下げられていることで、石油製品の価格が高止まりしている。灯油の需要期となる冬季に補助金が減額されたことで、特に灯油価格に与える影響が大きくなっている。
□	高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・ランチが順調なことから、3月も前年並みの売上が期待できる。昼はなじみ客が減少しているものの、新規客が増えている。ただし、新規客は料理の説明をしても反応が薄く、物足りなさを感じる。夜は早い時間帯の予約客ばかりで、歓送迎会のような集まりは多くなかった。以前は歓送迎会の予約が早い時期から入っていたが、今は大分少なくなっている。先日、ピッツアの認定店を訪ねた人から聞いたところ、ランチが混雑しており、量が多めで価格も適正なピッツアセットが好評なようでうらやましかった。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・3月に入っても、景気は余り変わらなかった。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・景気のやや悪い状態が続いている。大阪・関西万博の開催に向けて、旅行需要が盛り上がることを期待していたが、開幕1か月前になっても申込みが増えるような様子がみられない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・天候の悪い日は利用が増えるものの、一時的な動きにとどまっている。日中も夜間も状況は大きく変わっていない。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・乗務員不足が顕著であり、想定しているような稼働台数を維持できない状況にある。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・前年から、各種商品の値上げに対する客の警戒感が強くなっており、来店周期も長期化していたが、最近になって、徐々に以前の来店周期に戻りつつある。多少ではあるが、売上も増加傾向にある。
□	住宅販売会社 （経営者）	販売量の動き	・住宅市場は、資材価格の高騰、人件費の増加、金利上昇の影響で厳しい状況が続いている。
□	住宅販売会社 （経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客について、購入の意思決定に要する時間が短くなっている。また、少しずつではあるが、来客数も増加傾向にある。
□	住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・建築単価が高止まりしているなか、住宅ローン金利が上昇していることで、消費者の購入意欲が停滞している。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の話を聞く限り、景気は良くなっていない。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・前年末から来客数と売上が減少し始めており、3月に入ってから落ち込みが顕著に表れている。特に駐車場の稼働率が低いことから、客が来街を控えていることがうかがえる。物価、特にガソリン価格の高騰が客の消費行動にボディープローのように効いていることから、今後の動向にも不安がある。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・3月は春のお彼岸があったが、花や菓子などの関連商材の売上が良くなかった。客の生活防衛意識が強まり、生活必需品以外は買わない傾向が強まっていることがうかがえる。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・物価高の影響もあって、売上は増加傾向にあるものの、来客数は減少している。客の来店頻度が低下している状況にある。

	▲	衣料品専門店 （経営者）	それ以外	・今年は春の訪れが遅いことから、春物商材が売れていない。原材料価格が高騰しているが、客の節約志向が強まっているため、価格転嫁も思うようにできない。売上は前年並みで推移しているものの、人件費の増加などにより、利益が圧迫されている。
	▲	衣料品専門店 （エリア担当）	来客数の動き	・米を始め、食料品の価格が高騰していることから、客が衣料品への支出を抑えている様子がうかがえる。客単価が上昇していないこともそれを裏付けている。
	▲	乗用車販売店 （経営者）	販売量の動き	・物価高や貸出金利上昇の影響が顕著に表れている。個人客は消費マインドが低下しており、法人客は様子見している状況がうかがえる。
	▲	住関連専門店 （役員）	販売量の動き	・3か月前と比較すると、売上の前年比が低下している。特に春物商材の売上が低調なことから、食料品の値上げを要因に客の買い控えが強まっていることがうかがえる。このため、景気はやや悪くなっている。
	▲	その他専門店 〔造花〕（店 長）	お客様の様子	・3月に開催したイベントの来客数が例年よりも1割ほど減少するなど、来客数の減少傾向が続いている。また、客の様子をみると、必要品のみを購入する客が多い。新商品への関心も薄れている。
	▲	高級レストラン （スタッフ）	お客様の様子	・各種値上げの報道ばかりで、景気を向上させるような報道がないこともあって、停滞感が強まっている。
	▲	高級レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・観光の閑散期ということもあって、来客数の落ち込みが大きくなっている。
	▲	旅行代理店（従 業員）	来客数の動き	・前年と比べると、来客数が徐々に減っている。特に近場の温泉の宿泊予約は、毎年のように販売量が減少している。宿泊代金が上昇していることで、近距離の旅行を抑える傾向やWe b経由で直接宿泊施設を手配する傾向が強まっている。
	▲	通信会社（企画 担当）	競争相手の様子	・店舗の販売員が不足しており、販売目標に対して人的パワーが不足している。人材派遣で補おうとしても、競合他社が高額で人手を確保してしまうため、人手不足が解消できない状況にある。販売員の疲弊も目立っている。こうした状況は、全道的に生じている。
	▲	美容室（経営 者）	お客様の様子	・客から物価の高騰で悩んでいるという話をよく聞く。
	▲	その他サービスの 動向を把握で きる者〔フェ リー〕（従業 員）	来客数の動き	・3月は天候要因による欠航が多く、計画どおりに輸送できなかったことから、当初の見込みを下回った。
	×	一般小売店（経 営者）	来客数の動き	・景気は3か月前と比べて悪くなっている。先行きが不透明なことから、今後への不安も増している。
	×	スーパー（店 長）	販売量の動き	・物価の高騰が収まらないことから、客の買上点数が落ち込んでいる状況にある。
	×	スーパー（店 長）	お客様の様子	・値上げの動きが続いているなか、新年度から一層の値上げが予定されていることから、客の買物がますますシビアになることが懸念される。物価の上昇幅を上回るような賃金の引上げがみられないことが問題である。
	×	観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・地域の航空路線は充実しているものの、国内団体客及びインパウンドの集客に苦戦している。特に台湾からの客の落ち込みが目立っている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・3月は卒業や異動のシーズンであり、夜の街は送別会や謝恩会でにぎわうことになるが、今年は例年よりも人出が少なかった。客の消費マインドが低下していることがうかがえる。
企業 動向 関連 （北海道）	◎	*	*	*
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・次年度繰越し工事以外の現場では、全て予定どおりしゅん工を迎えた。追加工事に伴う上乗せで採算の良い現場が多く、完工高も利益も計画を大きく上回り、好決算が確実となった。

	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫関連では、バターの保管が堅調に推移している。飲用乳の需要が伸び悩んでいることでバターへの転用が進んでいることが理由とみられる。トレーラー輸送では、紙パルプが順調に推移している。飲料関連も徐々に動きが出ている。年度末ということもあって、本州間で雑貨などの輸送も増えている。こうした傾向がしばらく続くようだと、今後の活発な荷動きが期待できる。
	○	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・春先となり、3か月前と比べると貨物量が増加している。客先からの引き合いも増えている。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・人手不足問題はあるものの、国内の建設投資は公共投資も民間投資も堅調に推移している。
	□	農林水産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・かんきつ類の不作が影響して、果物の市場価格が高騰している。また、雨が少ないことから、青果物の収穫が全体的に安定していない状況にある。青果物市場が長いトンネルに入った可能性がある。
	□	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・米国の関税の動向が不透明なことから、海外ビジネスに影響が生じることが懸念される。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年度の受注量が目標を上回っていることから、景気は良好といえる。ただし、案件の量と比べて、技術者の不足が目立っており、対応できる業務量に制限が生じている。
	□	通信業（営業担当）	取引先の様子	・IT関連や情報通信など、大部分の取引先から、今期の収支や現在の業績状況について、計画どおりとの話や予算を上回るとの話を聞くことから、景況感は引き続きやや良い状態にある。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・建築関連工事の案件について、一部の工事が動いてはいるものの、全般的に仕事量が少ない傾向にあり、ベース商品などの動きが鈍くなっている。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年、年度末は受注量の増える時期だが、今年はふだんの月と変わらない受注量となっている。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月の販売量は前年比プラス20%であったが、3か月前の12月の販売量は前年比プラス23%だったため、景気はやや悪くなっている。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・仕入価格や原材料価格の高騰に対して、一定程度の価格転嫁が行われているものの、企業からは、これ以上の価格転嫁は難しいといった声や人件費、労務費の上昇分の価格転嫁は取引先の理解が得られないという声を聞く。このため、景気はやや悪くなっている。また、物価高が続いていることで、消費者の節約志向が強まっていることもマイナスである。
	▲	司法書士	それ以外	・受注量や取引量に変化は余りみられないものの、ガソリンや食料品の価格高騰、インボイス制度の導入などにより、支出が増えていることから、景気はやや悪くなっている。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・季節要因もあって、受注量が低迷気味である。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人数は引き続き増加傾向にある。一方、求職者数は3か月前と比べて急増している。年末年始が終わり、転職活動を再開したためとみられる。転職希望者の増加により、今後、企業では欠員が増えることになるため、企業の求人意欲はますます高まることになる。ただし、企業の求めるスキルに達していない人材も多いとみられるため、ミスマッチの状況がしばらく続くものとみられる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建設、運輸、医療など、一部の業界の求人数が増えているが、全体としては低調に推移している。一方、採用については、比較的円滑に進んでいる雰囲気がある。

	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は、業種を問わず横ばい又は微増傾向にある。ただし、これが季節要因によるものか、景気が良くなっていることによるものか、判断が付かない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・当地のポテンシャルでは、企業が高収益のビジネスモデルを構築できないことが多い。そのため、地場企業の多くが、現在の状況を堪えしのんでいる。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における2月の有効求人倍率は0.83倍であり、前年を0.06ポイント下回った。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で17.8%の減少、月間有効求人数は前年比で10.2%の減少となり、9か月連続で前年を下回っている。ただし、特殊要因による影響が大きく、大幅な落ち込みが継続しているとまではいえない状況にある。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・中小企業の人手不足の状況に変化はみられない。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が7か月連続で前年を下回っている。業種別にみると、人手不足分野に限らず様々な業種で求人数が減少している。
	×	—	—	—